

大韓民国の高齢者福祉における生と死の教育

岡本宣雄*¹ 井上信次*¹

はじめに

国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) のソーシャルワークの定義 (2000年7月) では、ソーシャルワーカーは社会において支援する個人、家族、コミュニティの人びとの生活に変革をもたらす仲介者であり、ソーシャルワークは、価値、理論、および実践が相互に関連しあうシステムであると述べられている。そして、その専門職の教育において、価値、理論、実践の習得を目指すとされている。そのうち価値は専門職が利用者の利益に向けた支援をする際に思考や判断、方向性を定めるもので、この価値の基盤となる援助者自身の死生観は重要となる。

筆者らは2008年11月に大韓民国 (以下「韓国」とする) 京畿道富川市のソウル神学大学、また、ソウル市内にあるDong Myung Senior Welfare Center (高齢者介護施設)、Korea Christian University等を視察する機会が与えられた。本稿は、この視察のうち、Korea Christian Universityの社会福祉学部の高齢者福祉の科目において、生と死を焦点とする講義内容を報告する。そして、社会福祉大学における生と死の教育について考察をする。

1. 韓国の大学における福祉専門職の養成過程

1.1. 韓国ソーシャルワークの教育制度の経緯

韓国の社会福祉教育は、1947年に、4年間の学部レベルでのプログラムとして発足した。当初、米国のソーシャルワーク教育を導入し、国立ソウル大学を除き、1960年以前にソーシャルワーク学部を開設した全大学がキリスト教主義の大学であった。

1970年代、韓国では本格的に社会保険やその他、福祉サービスが実施されるようになり、社会福祉研究が進展し、1980年代には、ソーシャルワーク学部の名称は社会福祉学部と変更となった。

1995年に韓国文部省は、教育改革の一環として、

いくつかの専攻科目を1つの包括的学部、学科に統合することを発表し、2003年以降、家族、社会、福祉が一専攻科目として分類した。すなわち、家族、社会、福祉学部は社会福祉学部、そして、ソーシャルワーク学部は、家族福祉学科、児童福祉学科、高齢者福祉専攻、および人間社会福祉学科からの構成とした。¹⁾

1.2. 韓国社会福祉士の資格

韓国では1985年、社会福祉事業法により、ソーシャルワーカーに福祉専門職として「社会福祉士」という名称が付与された。

韓国統計庁の「韓国標準職業分類」では、社会福祉士は、産業社会で発生する多様な社会問題と福祉ニーズをもった社会福祉対象者を、社会福祉学および隣接する社会科学の専門知識をもとに、問題に対する診断と評価を通じ、最終的に問題解決ができるように支援する者と規定されている。²⁾

また、1997年に改正された社会福祉事業法の第11条では、社会福祉士の規定が記され、社会福祉士は、その資格証を交付される者で「社会福祉に関する専門知識と技術をもった者」とされている。社会福祉士の等級は、1、2、3級があり、2003年1月から、社会福祉士1級は国家試験に合格した者とされている。

1.3. 韓国社会福祉教育のカリキュラム

韓国のソーシャルワークカリキュラムは9つの教育分野に分かれる。すなわち、「実務の倫理と価値観」「社会福祉基礎科目」「人間の行動と社会環境」「実務手法」「法、制度、政策」「行政プログラム」「研究データ分析」「サービス分野」「ソーシャルワーク実習」である。そして、各教育分野に科目が配置されている。(表1) 韓国の社会福祉専攻の学生の総必須単位は、42単位 (14科目) となっている。

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科
(連絡先) 岡本宣雄 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学
E-Mail: nobuo@mw.kawasaki-m.ac.jp

表1 現行カリキュラム

教育分野	科目
1. 実務の倫理と価値観	社会福祉倫理と哲学
2. 社会福祉基礎科目	社会問題 社会福祉入門 社会福祉の歴史
3. 人間の行動と社会環境	人間の行動と社会環境
4. 実務手法	社会福祉実務 社会福祉実務の技能と技法 コミュニティ福祉と実務
5. 法、制度政策	社会福祉と法律 社会福祉政策 社会保障
6. 行政とプログラム	社会福祉行政 社会福祉プログラム 策定と評価
7. 研究データ分析	社会福祉における研究手法 社会福祉データ分析
8. サービス分野	児童福祉, 青少年社会福祉, 高齢者社会福祉, 障害者社会福祉, 女性社会福祉, 家族社会福祉, 産業社会福祉, 医療社会福祉, 学校社会福祉, 精神衛生社会福祉, 矯正社会福祉, ボランティア 管理, ソーシャルワーク監督
9. ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習

※太字は必須科目

引用：日本社会事業大学社会事業研究所編（2007）
p.28¹⁾

2. 科目「高齢者社会福祉」における生と死の理解

今回の韓国視察でソウル市内にあるKorea Christian Universityの訪問の機会が与えられた。この大学の視察にて、社会福祉教育を担う高齢者社会福祉の科目を担当する教員から生と死の理解を踏まえた特色ある講義内容についての説明があった。

以下、この科目の一単元である「高齢者と死」の講義内容と学生参加型による講義形態での内容について述べる。^{†1)}

2.1. 高齢者と死

「高齢者と死」を主題とする講義が、教員によって講義形態で行われる。この講義の柱立ては3つある。すなわち、「死に対する理解」「高齢期の死」

「社会福祉領域の課題」である。ここで各項目の中身を概観する。

2.1.1. 「死に対する理解」

ここでは、まず、「死に対する理解」として現代人の死をめぐる考え方の背景となる要因や変化等の学習を行う。

(1) 「死に対する定義」

医療倫理学の領域からRobert M. Veatchの死に対する4種類の定義①生体液流動機能の不可逆的喪失②身体的統合能力の喪失の有無③魂の不可逆的喪失④社会的相互作用、意識的能力の喪失を取り上げる。次に、医学的な死（臨床における死、生物学的な死）の意味、宗教における死の意味（特にキリスト教）について学ぶ。

(2) 「死に対する態度」

死に対する現代人の死に対する多様な変化に触れ、死に対する変化の要因（死の原因、地理的移動性、死に場所の変化、医療技術の発展）に関しての考察を行う。

(3) 「死と関連した課題」

倫理的な課題として、安楽死（苦痛と痛みのない安らかな死を意味する管理された死）、臓器移植（他者の臓器を移植することによる生命維持）の意味と現状、そして、霊的な課題（私とは誰か、人生の真の意味とは何かとの問いに答えを探す過程）の人間のもつ側面について考察する。

2.1.2. 「高齢期の死」

「高齢者の死」の箇所では、高齢者の死と関連する課題とそれへの福祉的な観点からの支援のあり方について学習を行う。

(1) 「高齢者の寿命と死」

平均寿命の延長と死亡率の低下による高齢者人口比率の増加の現状について言及する。

(2) 「老化と高齢者」

老年医学者のRobert Butlerのサクセスフルエイジング（幸せな老後）の観点から、人間の可能性で最も偉大なこと、すなわち愛を感じ、和解と解決の可能性は人生のまさにその終わりに残っている、との高齢者像を明らかに示す。

(3) 高齢者と社会的支援

さらに、高齢者に対する社会的な支援が様々な方式で提供されることが、心理的満足や身体的健康の向上、維持に貢献すること、また、社会的支援の垂直的サポート体制との関係形成、高齢者の死に対する不安の緩和、心理的安定に視点を置いた支援の重要性を述べる。

(4) 「老年期の死の経験」

配偶者の死、友人の死、成人した子どもの死を経

験する高齢者の喪失感、簡単には受容されない親しい者との死による別れと悲嘆について理解し、時間をかけて喪失を克服する支援の必要性が表わされる。

そして、高齢者と死に関連する課題として「老人の死別」「未亡人の境遇」が取り上げられ、「幸福に向かう死の過程」では、高齢者の身体的側面、心理的側面、家族（関係）の側面、宗教的側面（臨終にある高齢者が抱く霊的なニーズ）の考察を行う。

2.1.3. 「社会福祉領域の課題」

「社会福祉領域の課題」の箇所では、死に向かう当事者、遺族への支援、その支援の場所としてホスピスについて学習する。

(1) 死に向かう者への援助

死に向き合う人への支援として、Kubler-Rossが提唱する「死の受容のプロセス5段階」（否認、怒り、取引、抑うつ、受容）を取り上げ学習する。

(2) 遺族に対する援助

遺族の情緒面での変化とその内容（ショック、感情爆発、怒り、疾病、空虚感、罪悪感、憂うつと孤独、拒否、希望、現実肯定）を考察する。

(3) ホスピス

ホスピスの定義について学び、ホスピスで提供されるプログラム、ホスピスの形態（在宅、病院内、独立型、単独型）の特徴、現代ホスピスの課題（接近性、霊的保護、治療の費用、改革と革新、選択性）を理解する。

3. 学生の発表による「高齢者と死」

本講義では、教員からの講義を聴いた後に、学生自身が高齢者の死をめぐる問題と支援の方法の理解を深めるため、文献研究、高齢者へのインタビュー調査等を通し、高齢者の生と死に関連する問題を身近なものとする。そして、その成果をグループ発表する。この発表の構成と内容の概要は以下の通りである。

3.1. 死に対する理解

「死に対する定義」では死が歴史的にどのように捉えられてきたか、又は現代社会の死の理解を考察する。続いて、「死に対する態度」（死の原因、地理的移動性、死の場所の変化、医療技術の発展）、について取り上げる。

3.2. 高齢期の死

「高齢者の寿命と死亡」では、韓国の国民調査のデータを用い、説明する。次に講義の内容をレビューするかたちで、「老化と高齢者」（老化の特徴）、「死を控えた高齢者」（死をめぐる高齢者の権利：①事実を知る権利、②秘密を保障される権

利、治療承諾、③拒否する権利、④死に場所を選択する権利、⑤身体処理の決定権）、「高齢者の死の経験」（配偶者の死、友人の死、成人の子どもの死）を取り上げ、高齢者の死の特徴と死をめぐる喪失体験等を理解する。これらを踏まえ、「死にゆく者に対する援助」として、講義で学習したKubler-Rossの「死の受容のプロセスの5段階」の各段階における家族および社会福祉士の姿勢と役割を考える。

3.3. アンケート調査

高齢者の死に対する基礎的な理論を理解し、死に対して準備の必要があるとの認識に至る。この点から、地下街を通行中の高齢者に対して死の準備に関するアンケート調査を実施しその結果を報告する。主な質問項目は、死に対する準備の有無、死の準備内容（遺言状、遺影、葬儀組合への加入の有無、葬儀方法、死の準備教育の参加等）、死の準備教育をしない理由、死の準備の希望すること等である。

3.4. 幸せな死のための計画と準備

死の準備の重要性を認識し、これに関連する論文、資料調査を参考にまとめ、死の準備の意義、現在、死の準備として提供されている実際のサービスを調べる目的で、福祉機関を訪問し、その結果を発表する。

総合社会福祉館において、地域社会保護事業の一環で実施されている死の準備教育のプログラム（認知症予防、死の準備教育、遺言状書き、霊前写真撮影、入棺体験等）の現状を発表する。

その他、遺族に対する援助、社会福祉領域におけるホスピスの意義と課題について取り上げる。

3.5. 社会福祉士の役割と課題

最後に、高齢者の死に対する社会福祉士の課題を取り上げる。死はすべての人が経験する自然な現象であり、死は人生の過程であり、死に対する正しい知識と準備により、高齢者が幸せで豊かな老後の生活をもてるようになること、そして、高齢者たちが経験する死に対する心理的な不安感を軽減し、死に向かうにあたり、自らに肯定的な姿勢になるための多様なプログラムとサービスの開発、例えば、回顧、内省できるプログラム、遺言や遺産相続に関する法律的知識、墓地の問題、葬儀に関する死の準備を支援することの重要性について表明する。

おわりに

以上、韓国の一大学における高齢者社会福祉の科目のうち、高齢者の死とそれに対する福祉職としての支援に関する講義の内容について考察した。講義で取り上げられた「死の理解」「死に対する態度」

「死に関連した課題」等では、基本的に人を対象とし支援する福祉職としての価値や死生観を再認識する機会となると考える。また、高齢者の生活支援に向けて、高齢者の死の特徴、それに関連する課題や具体的な支援のあり方を理解することが社会福祉職として重要であることが分かる。

また、講義では最初に教員の講話があり、その後、学生自身が高齢者の死をめぐる課題について発表する講義形態が特徴的であった。このテーマについて街頭での高齢者に対するインタビュー、高齢者支援機関を訪問し実地調査し、実際に高齢者と出会い、社会福祉職の生活支援が人の生と死に大きくか

かわることが実感できたと考える。生と死のテーマを取り上げる講義の場合、このような学生参加型の形態も有効である。

今後は、死の認識に影響をおよぼす各国固有の社会的要因、文化的背景を理解した生と死の教育が必要である。

本研究は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)「生と死へのアクチュアリティに関する研究－社会福祉専門教育での実践に向けて－」(課題番号：19530541,研究代表者井上信次)の補助金を受けたものである。

注

- †1) Korea Christian Universityの科目「高齢者社会福祉」を担当する、Ph.D. Park Bon-Gil氏の講義レジュメ、資料を参考に用いた。

文 献

- 1) 大橋謙策, 植村英晴, 山下英三郎監修: アジアのソーシャルワーク教育－ソーシャルワークを取り巻く現状と課題－. 日本社会事業大学社会事業研究所編, 学苑社, 東京, 21-36, 2007.
- 2) 李英芬: 韓国社会福祉士の現状と課題. 株本千鶴訳, 人文学報, 310 (社会福祉学), 55 - 86, 2003.

(平成22年5月12日受理)

Life and Death Education of Elderly Welfare in South Korea

Nobuo OKAMOTO and Shinji INOUE

(Accepted May 12, 2010)

Key words : life and death education, elderly, South Korea

Correspondence to : Nobuo OKAMOTO

Department of Social Work, Faculty of Health and Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-0193, Japan
E-Mail : nobuo@mw.kawasaki-m.ac.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.20, No.1, 2010 231 - 234)